

国際学術コンソーシアム（AC21）推進室活動報告

岩 城 奈 巳

はじめに

2002年に名古屋大学の提唱により設立された国際学術コンソーシアムは（以下 AC21）、高等教育の発展のためにグローバルなレベルでの相互協力をより一層促進させると共に、国際社会および地域社会に貢献するため構築された、世界の大学、研究機関および企業で構成された国際的な学術ネットワークである。初年度名古屋大学で行われた国際フォーラム以降、2年毎のフォーラムを、オーストラリア・シドニー大学（2004）、そしてイギリス・ウォリック大学（2006）にて開催した。また、学生間の相互理解の促進のため、AC21メンバー校の学生が集まり1週間にわたって開催される学生世界フォーラムを、第1回は2005年に名古屋大学（2005）及びフランス・ボンゼジョゼ工科大学（2007）にて開催した。さらに、複数のメンバー校との国際シンポジウムを AC21が主催となって実施した。更に主要7メンバー校からなる運営委員会は毎年開催され、AC21の将来や今後のフォーラムの計画などについての話し合いが行われるなど、精力的に活動を展開している。世界の大学を相手に国際展開するコンソーシアムの事務局（以下 AC21推進室）が日本の大学に設置、運営されているのは名古屋大学のみであり、このような意味からも AC21の活動は国内外から注目されるようになっている。

設立から5年しか経過していないコンソーシアムであり、2年毎のフォーラムと学生フォーラム以外のプロジェクトを今後どのように発展、展開させていくのか模索中であるが、第3回ウォリック大にて行われた国際フォーラムでは、AC21メンバーのみならず、ヨーロッパを中心に30カ国500名近い参加者がメインフォーラムに参加、また、並行して開催された研究フェスティバルでは1000名を越える参加者が集り、AC21というコンソーシアムの名前を大々的にアピールすることができた。また、名古屋大学は文部科学省から国際的な産学連携のプロジェクトを推進する12大学の1つに選定されており、AC21はそのプ

ロジェクトの重要な推進母体も担っている。今後も、国際フォーラムと学生世界フォーラムを軸にしつつ、AC21の課題とされている多数の大学が参画する継続的なプロジェクトの推進をおこない、AC21として独自の魅力を引き出す努力を惜しまず、推進室と各メンバーが協力し合い、活動の幅をより一層広げていきたい。

筆者は AC21が設立された3年後の2006年2月よりプロジェクトコーディネーターとして AC21推進室に着任し、2007年4月より、留学生センター配属となった。以下は AC21推進室の2007年度の活動報告、そして今後の AC21推進室の役割についての課題を提示する。

I. 2007年活動報告

1. メンバー訪問

コンソーシアムを運営するためには、相手の大学との意思疎通が重要な鍵となってくる。AC21主催のイベントも、当初は参加者が大勢いたものの、参加者が徐々に減り、筆者が2006年2月に着任するまで、約半年間、AC21推進室のプロジェクトコーディネーターが不在だったこともあり、各メンバー校へ連絡をとっても、なかなか返事が返ってこなかったり、または音信不通になっていたりする大学があり、AC21を運営していく上での大きな問題となっていた。このようなコンソーシアムを円滑に進めるには、お互いを良く知る事、そしてメンバーがコンソーシアムについて共通の理解を持つことが必須である。2006年9月に AC21推進室室長が交代したのを機に、室長とともに、できるだけ多くのメンバーを訪問し、実際に各大学の AC21担当者と会い、AC21について話していくことを決めた。忙しい合間をぬっての出張は非常に厳しいものだったが、19メンバー中、14メンバーを訪問することができ（参考資料2）、AC21への理解と参加、そしてコンソーシアムについての意識をお互い高め、今後に繋げることができたと感じている。これらの訪問の

結果は、来年度行われるノースカロライナ州立大学での国際フォーラムへのAC21メンバーの出席が飛躍的に増えたこと、そして常に各大学のAC21担当者（以下AC21コミュニケーター）とも連絡がとれるようになったことに現れている。今後も努力を惜しまず、各メンバーと頻繁に連絡をとりあう努力が必要であると痛切に感じている。

2. 広報活動

a) AC21 Newsletter

2002年の設立以降、メンバー向けにAC21 Newsletterは発行されてきたが、毎年1回程度のものであった。そこで、2007年以降、各メンバー、また関係機関にもAC21の活動をより知ってもらうべく、年に数回のNewsletterを発行することにした。推進室員から構成されるメンバーで広報ワーキンググループを設置し、手分けして活動記事の執筆をおこなっている。また、AC21メンバーからも記事を投稿できるよう、Editorial Boardを設置し、メンバーを募った。そのかいもあって、AC21推進室関係者の記事だけではなく、Editorial Boardメンバーからの記事も増えた。現在AC21 Newsletterは第5号まで発行している。

b) AC21通信

国内外からは評価が高まっており、注目されているAC21だが、名古屋大学内からは、AC21推進室の活動が見えにくいとの声が上がっていた。実際、今までの活動は、対AC21メンバーに向けてであり、AC21推進室が設置されている学内に対しては報告があまりされてこなかった。これを受け、学内に情報発信することの必要性を強く感じた。そこで、学内向けの広報活動の一環として2007年3月にAC21通信を発行した。きめ細かい情報を学内に向けて発信することで、学内にもAC21の活動の周知、そしてプロジェクトへの参加を大きく呼びかけていきたい。現在第3号まで発行している。

c) Monthly Report

月に1度、AC21 Monthly Reportとして1ヶ月の推進室の活動について各メンバーに電子メールにての報告を送っている。これも、推進室の活動をメンバーに報告、そしてAC21のことを忘れずにいてもらう広報活動の一環で、内容は推進室が訪れたAC21メンバー

大学についてやAC21推進室への訪問者など、小さい出来事から、フォーラムのリマインダーなどが含まれている。

3. AC21イベント・プロジェクト

a) AC21学生世界フォーラム開催

国際フォーラムとともに、AC21の大きな活動の1つとなっている世界学生フォーラムは、7月22日から29日までフランスのボンゼシヨゼ工科大学にておこなわれた。2回目となる今年のテーマは“Sustainable Cities”で、3つのテーマ1. Energy, 2. Transportation, 3. Building and Housingについてのワークショップが1週間に渡って開催された。参加者は、11メンバー大学から学生16名にのぼり、名古屋大学からは学部生3名、AC21推進室副室長が参加した。

b) AC21学生ミニ世界フォーラム開催

名古屋大学と上海交通大学合同の“第1回日中環境シンポジウム”と共催し、11月15日、16日にAC21学生ミニフォーラムが名古屋大学にて開催された。第1回のテーマ“南水北調”について、AC21メンバー校から、上海交通大学の学生と復旦大学の学生が参加、名古屋大学の学生と共に活発なディスカッションを交わした。

c) AC21第4回運営委員会開催

第4回AC21運営委員会が10月25、26日の2日間に渡って名古屋大学にて行われた。5年の節目を迎えたAC21にとって、この会議はAC21の活動を振り返る良い機会であり、過去5年の活動、参加大学、予算の構造などを総括した“ポジション・ペーパー”を推進室で作成、その上で活発な議論をおこなった。AC21年会費の改定、AC21として発信するプロジェクト支援予算を含めた年間予算の計画などの提案、また、新メンバー加入の手続きの方法などが議論された。さらに、AC21パートナー企業、団体との連携を強化するための方策についての議論もおこなわれ、各メンバーが更に努力する必要があると指摘があった。これらを受け、推進室にてポジション・ペーパーの最終版を作成し、次回ノースカロライナ州立大学で行われる運営委員会にて紹介、更に訂正や加筆をおこなったあと総会にて承認をうけ、最終版とする。

d) AC21国際シンポジウム開催

AC21運営委員会と併設し、“高等教育における質保証と評価”と題し、シンポジウムを開催した。大学の国際化論について多くの著作があり、大学の国際比較研究の先駆者である Hans de Wit 博士による基調講演では、コンソーシアムの意義、各メンバーにとって価値の見出せるコンソーシアムについての話があった。その中でも、広報活動の重要性や各メンバー同士でおこなう情報収集（ベンチマーキング）についてなど、AC21を今後運営していく上で重要な話しがあった。その後、AC21メンバー校の代表者を交えたラウンドテーブルセッションが行われ、各メンバーの取り組み方が浮き彫りになる中、AC21という枠をどのように有効活用できるかという話し合いが行われた。このシンポジウムには、AC21、名古屋大学関係者のみだけでなく、内外の関係者が多数参加し、今後のAC21としての活動や方針の提案が多く示され、大変有意義なものとなった。

e) 2007年度 AC21プロジェクト計画

AC21メンバー大学が2大学以上参加する共同プロジェクトに発展する可能性のあるプロジェクトに支援するAC21プロジェクト計画を募集し、以下の10件を採択した。共同プロジェクトの支援を通じて、学内に向けてのAC21への周知、またAC21メンバーとの国際学術交流の推進が目的である。これらの1部は、第4回国際フォーラムにて発表またはセッションの寄与を予定している。

- ・会計の国際的収斂とアジアにおける「ものづくり」の現状と課題に関する研究（経済学研究科）
- ・留学生向け夏季セミナー「自動車における新技術と課題」の企画（工学研究科）
- ・早生樹プランテーションの健全経営による東南アジア木質バイオマス資源のブランド化戦略（生命農学研究科）
- ・パリ国立図書館東洋写本室資料古書目録作成準備研究を通じた異文化交流の諸相（国際言語文化研究科）
- ・Webテレビ会議システムとブログで結ぶアジア英語による自他国学生文化交流（国際言語文化研究科）
- ・名古屋大学・上海交通大学 第1回「環境研究交流会」（環境学研究科）
- ・AC21をむすぶ多言語津波情報ネットワーク（情報連携基盤センター）

- ・留学生支援の総合的取組みに関する比較研究：留学生30万人時代に対応するグローバルキャンパスを目指して（留学生センター）
- ・AC21大学博物館連携によるアジア・オセアニア自然誌フィールドセミナーの推進（博物館）
- ・AC21国際シンポジウム：高等教育における質保証と評価（AC21推進室）

4. その他

a) APAIE（アジア環太平洋国際学会）参加

AC21の活動を国内外の高等教育関係者に理解を深めてもらうこと、そして活動を促進するため、過去5年の活動を振り返り、コンソーシアム運営についてのセッションを早稲田大学で行われたAPAIEにておこなった。セッションタイトルを“Possibilities and challenges of International University Consortia: Experience of AC21”とし、同じく世界的に活動しているコンソーシアム、U21と共にセッションを行った。聴衆は50名を越え、世界各地で次々に設立されているコンソーシアムに対し注目が集まっている事を実感した。AC21よりも以前から活動をしているU21も、まだまだ学内への周知及び活動内容について理解がされていないということを知り、同じような問題がコンソーシアム運営をしていく上では抱えていくものなのということも学べ、今度もコンソーシアム同士のネットワークを広げAC21の活動に役立てていけると感じた。会場では、名古屋大学・AC21推進室の共同でブースを設置し、PR活動もおこなった。

b) 第4回 AC21国際フォーラム準備

2年毎に行われてきた国際フォーラムも2008年7月で4回目を迎える。第4回はアメリカ・ノースカロライナ州立大学にて開催され、テーマは“University Partnerships: Global Collaboration and Innovation for the 21st Century”，そしてサブテーマは，“International Student and Academic Exchange”，“Challenges for Global Higher Education”，“Innovation and Technology Transfer”の3つに設定されている。準備にあたり、理事、室長と共に州立大学を数回に渡って訪問し、打合せ、会場視察などを行ってきた。名古屋大学は、昨年10月にノースカロライナ州に“名古屋大学テクノロジーパートナーシップ”を開設し、名古屋大学の国際的な産学連携のための拠点

としての活動も期待されている。また、国際フォーラムにあわせ、第5回 AC21運営委員会、第3回総会が開催される。ここでは、先出の第4回運営委員会にて話し合いの行われたポジション・ペーパーについての更なる議論を行い、参加費や新メンバー加入法などについての議論が行われ、総会にて最終決定される。

II. 今後の AC21の展開と課題

2007年度はできるだけ多くのメンバーを訪問することによって、AC21への理解、そして AC21推進室の取り組みを理解してもらう年になった。各メンバーからさまざまな提案が出され、AC21への期待も大きい事が伺えた。コンソーシアムとして、AC21は何が出来るのか、そして各メンバーに何が提供できるのか。AC21推進室として、毎月開催される推進室会議やさまざまなワーキンググループの会議を通じて、AC21発展の為にさまざまなプロジェクトを立案している。しかし、推進室のみで活動するには限界があり、各メンバー、特に運営委員会のメンバーとは常に情報発信、やりとりを行っていかねばならないと痛感している。

1990年以降、ブームのようにして設立が始まったコンソーシアムは、まだ衰えることなく、今後も様々な形でコンソーシアムが設立されていくと予想される。そして、各大学も、1つのコンソーシアムに属しているのみでなく、メリットを感じたり、強い誘いを受けたりすれば新しいコンソーシアムに加盟するであろう。実際、名古屋大学も2007年10月に設立されたIFPUというコンソーシアムにメンバーとして加盟を果たした。これからは、乱立するコンソーシアムの中で、どのように AC21の独自色を出しメンバーにアピールしていかねばならないか、真剣に考えていかねばならない。そういった意味で、今回作成したポジション・ペーパーは AC21メンバー全員で AC21の独自性について共通認識を持ち、各メンバー校がコンソーシアムとして活動していく意義を実感し、AC21の活動、基本理念を再検討する良い機会であると感じる。節目の5年を迎えた今、6年目に向け、更なる飛躍をしなければならぬ。

参考資料1：AC21イベントカレンダー

| | |
|-------------|--|
| 2007. 7 | 第2回 AC21学生世界フォーラム（於ボンゼンショセ工科大学 [フランス]） |
| 2007. 10 | 第5回 AC21運営委員会（於名古屋大学） |
| 2007. 10 | AC21国際シンポジウム「高等教育における質保証と評価」（於名古屋大学） |
| 2007. 11 | 名古屋大学・上海交通大学 第1回「日中環境研究交流会」（於名古屋大学） |
| 2008. 7 | 第4回 AC21国際フォーラム2008（於ノースカロライナ州立大学） |
| 2008. 7 | 第6回 AC21運営委員会（於ノースカロライナ州立大学） |
| 2008. 7 | 第3回 AC21総会（於ノースカロライナ州立大学） |
| 2009. 6 | 第3回 AC21学生世界フォーラム（於ケムニッツ工科大学） |
| 2009. [TBA] | 第7回 AC21運営委員会（於名古屋大学） |
| 2010. [TBA] | 第5回 AC21国際フォーラム（於上海交通大学） |
| 2010. [TBA] | 第8回 AC21運営委員会（於上海交通大学） |
| 2010. [TBA] | 第4回 AC21総会（於上海交通大学） |

参考資料2：2007年度 AC21推進室活動記録

| | |
|----------------|---------------------------------------|
| 2007. 2. 16 | 第51回 AC21推進室会議 |
| 2007. 2. 27-28 | シドニー大学訪問 |
| 2007. 3. 7-9 | APAIE 参加 |
| 2007. 3. 15 | 第52回 AC21推進室会議 |
| 2007. 3. 26-28 | ノースカロライナ州立大学訪問 |
| 2007. 4. 20 | 第53回 AC21推進室会議 |
| 2007. 4. 25-27 | ENPC 訪問 |
| 2007. 5. 16-23 | 中国科学技術大学、復旦大学、同濟大学、上海交通大学、南京大学、北京大学訪問 |
| 2007. 5. 25 | 第54回 AC21推進室会議 |
| 2007. 6. 18-19 | ノースカロライナ州立大学訪問 |
| 2007. 6. 29 | 第55回 AC21推進室会議 |
| 2007. 7. 2-5 | チュラロンコン大学、カセサート大学訪問 |
| 2007. 7. 4-9 | フライブルグ大学訪問 |
| 2007. 7. 20 | 第56回 AC21推進室会議 |
| 2007. 9. 10 | 第57回 AC21推進室会議 |
| 2007. 9. 12-15 | EAIE 参加 |
| 2007. 9. 19-20 | ノースカロライナ州立大学訪問 |
| 2007. 10. 5 | 第58回 AC21推進室会議 |
| 2007. 11. 9 | フライブルグ大学 AC21事務局訪問 |
| 2007. 11. 22 | 第59回 AC21推進室会議 |
| 2007. 12. 14 | 第60回 AC21推進室会議 |
| 2008. 1. 16 | ノースカロライナ州立大学訪問 |
| 2008. 1. 24 | 第61回 AC21推進室会議 |
| 2008. 2. 14-15 | フライブルグ大学訪問 |
| 2008. 2. 22 | 第62回 AC21推進室会議 |
| 2008. 3. 21 | 第63回 AC21推進室会議 |
| 2008. 3. 26-28 | APAIE 参加 |